



Japan YUAI Association

「友愛講演会」 2016 11 22 & 23
日本友愛協会

《友愛社会の実現を》

—北京の大学生に向けて—

鳩山友紀夫

- ◇ 愛には心が必要なのに
- ◇ 自分を愛していますか～自分が好きですか
自分が好きだから他人を愛せる
I love you.は通じますか

- ◇ 墨子

兼愛思想＝自分と同じだけ他人を好き＝>戦争のない世の中

『他人の国を自分の国と同じようにみなし、人の家を自分の家と同じだと思ひ、人の身を自分の身と同じように感じる。こうすれば、諸侯は互いに愛し合い戦争をしなくなり、一家の主が互いに愛し合えば篡奪も起こらなくなり、人と人がお互い愛し合えば盗賊もいなくなる。君と臣がお互いに愛し合えば君は臣を恵み、臣は忠を捧げる。父と子が愛し合えば、父は慈しみ子は孝を行う。兄弟が愛し合えばお互い親しみ調和する。天下の人々が皆お互い愛し合えば、強きものが弱きものを挫かず、数の多さで少ないものを脅迫せず、富を持つ人も貧しい人を侮らず、貴人も賤人を踏みつけにせず、愚者を欺かない。およそ天下の災難、篡奪、怨恨は儒者が仁として誉とするような愛が原因で起こって来るのだ。』

しかしながら、理想論であり、ふつうは自分と同じだけ他人を愛せない

- ◇ 孫文

今年は生誕 150 年:

博愛：孫文が最も好んだ言葉

民衆のため清王朝を倒し共和制国家の樹立

1924 年神戸での講演

『今後日本が世界の文化に対して、西洋覇道の犬となるか、あるいは東洋王道の干城となるかは、日本国民の慎重に考慮すべきことである。』

西洋覇道=功利強権

東洋王道=仁義道德



Japan YUAI Association

「友愛講演会」2016 11 22 & 23
日本友愛協会

☆ リヒアルト・クーデンホーフ・カレルギー

「全体主義国家対人間」の中で友愛革命を説く

『人間は神の創造物である。国家は人間の創造物である。

従って、国家は人間のために存在するが、人間は国家のために存在するのではない。

人間は目的であって、手段ではない。

国家は手段であって、目的ではない。

国家の価値は、正確にその人類に対する効能の如何に関する。即ち、その人間の発達に貢献することが大ならば大なるほど善であるが、その人間の発達を妨害するに至れば、直ちに悪となる。』

全体主義の席卷への危機感＝ヒトラーとスターリンの全体主義への
恐怖

自由と平等の尊重、自由と平等は経済では正反対

自由主義＝>資本主義

平等主義＝>共産主義

自由の行き過ぎは放埒、弱肉強食(新自由主義)

平等の行き過ぎは活力喪失

全体主義：個人の利益より全体の利益を優先し、全体に尽くすことで個人の利益が増進すると考える政治体制

=>自由と平等に対して戦う理論

『自由のための改革が立ち往生し、平等のための革命が失敗した後を受けて、友愛主義の革命は、今や国民と国民との間、階級と階級との間に橋梁を架し、以って彼らの全部に対して自由なる人間が四海同胞たることの福音をつたえるであろう。』

友愛＝自由と平等の架け橋

＝「隣人の個性を尊重することを以って、人格の観念に対する王冠となせるもの」

『友愛主義の政治的必須条件は連邦組織である。…人間から宇宙に至る道は同心円を通じて導かれている』

汎ヨーロッパ主義→EU

☆ フランス革命

三色旗：自由、平等、博愛 or 友愛

奴隷社会の上に成り立つ自由、平等、博愛

博愛＝愛の施し？≠友愛



Japan YUAI Association

◇ EU

1950年 シューマン宣言：経済と軍事における重要資源の共同管理構想
第二次大戦後ドイツとフランスの和解＜＝共通の汗を流す
欧州石炭鉄鋼共同体；両国の国境地域のアルザスロレーヌ地方
→欧州経済共同体（EEC）→欧州諸共同体（EC）→欧州連合（EU）
MRA=Moral ReArmament
スイスのコーで毎年集会→私も2度参加

◇ 鳩山一郎

カレルギーの思想に共鳴

「全体主義国家対人間」を「自由と人生」に和訳

友愛を日本の政治の舞台に乗せる

友愛：自己の尊厳の尊重と他者の尊厳の尊重

追放の時の自由党大会演説（1946年5月10日）

『私は誤解によりて今日の禍を受けました。党员諸君の間にお互いに誤解があってはなりません。熱論は可なり、併し冷眼たらざるべからず、お互いに自由主義の真髓たる人格の尊厳に目覚められし又、民主政治は友愛精神が基調たることを心に置かれて誤解を誡め吾党の結束に留意せられんことを願います。』

友愛：相互尊重・相互理解・相互扶助

① MRA 活動に理解

② 日ソ共同宣言(1956年10月19日)

シベリア抑留者の帰還

③ 日本友愛青年同志会→日本友愛協会

◇ 日本友愛協会

① 青年研修の場の提供：友愛山荘（軽井沢）

② 植林事業＝中国で実施、〇〇km²

③ ベトナムの枯れ葉剤による障がい者への車椅子の贈呈

④ ミャンマー農業青年の研修

⑤ 国際友愛写真コンクール

⑥ 友愛の広報活動

◇ 賀川豊彦

協同組合の提唱＜＝友愛

◇ 鳩山邦夫

自然との共生＜＝蝶のコレクター

友愛活動を自然環境問題に拡大



Japan YUAI Association

◇ 鳩山友紀夫

友愛＝自立と共生

友愛とは自己の自由と尊厳の尊重と同時に

他者の自由と尊厳をも尊重する精神

すなわち、自分だけの自由ではなく、相手の自由も尊重する。したがって
相手の自由を損なう自己の自由は許されない

自由には責任を伴う

自立＝自己の自由・尊厳の尊重

共生＝他者の自由・尊厳の尊重

依存、従属、もたれ合いの関係ではない

お互いに共通点を喜び合い、相違点を認め合い、理解し合い、違うからこそ
助け合う精神

⇒友愛は人と人、地域と地域、国と国、さらには人と自然の間にも成
り立つ

人と人　＝新しい公共

地域と地域＝地域主権

国と国　＝東アジア共同体

人と自然　＝環境保全

◇ 新しい公共

支え合いと活気のある社会を作るための当事者たちの協働の場

明治維新以降、近代国家の形成過程で「公共」＝「官」となる

政府が税制優遇などにより NPO を支援することなどで、「民」が行う「公
共」を側面から支える。

◇ 地域主権

日本では「国」が「地方」の上位にあると考えられてきた。「地方」が「国」
に依存、従属する関係となっていた。人はそれぞれ地方に生活している。

「国」と「地方」は対等である、むしろ地方にこそ主権があるとする発想。

「地方」と「地方」が競い合い、助け合う社会を創る。

補完性の原理：地域で出来ることは地域で行う

国から地方への権限移譲

◇ 東アジア共同体構想

グローバリズム（人、モノ、金、情報）⇒新自由主義⇒新自由主義の
弊害（1%の富裕層とそうでない99%、難民の流入）

ナショナリズムへの回帰（Brexit、安倍、プーチン人気）

リージョナリズムでグローバリズムとナショナリズムの弊害を除去



Japan YUAI Association

「友愛講演会」2016 11 22 & 23
日本友愛協会

友愛の理念で東アジアに共同体を形成する
すでに ASEAN は経済中心に統合(2015 年末)
日中韓が協力すれば実現可能
EU でできて東アジアでできないはずがない

【欠点】経済格差、宗教の多様性、政治体制、民主主義、資本主義などの
価値観の相違

【長所】友愛、和を以て貴しと為す精神、西洋合理主義より東洋精神主義
日中韓+ASEAN10 カ国が核だがオープンでフレキシブルな共同体
文化、教育、経済、金融、環境、エネルギー、医療、福祉、防災、安保…
武力による真の平和は実現できない
対話と協調を通じて問題を解決する
恒常的な議論の場の設置

東アジア共同体会議…沖縄に設置＝沖縄を軍事の要石から平和の要石に
東アジア平和会議…濟州島に設置＝濟州島は南北統一の原点
東シナ海のガス田開発を日中の共同事業へ＝>東シナ海を平和の海に
東アジアを戦争のない運命共同体にすること

◇ 習近平主席の一帶一路構想

一帶一路構想はユーラシア大陸をインフラ整備を中心に経済の連携を強
めて、地域を運命共同体にする構想

東アジア共同体にも言及

AIIB (アジアインフラ投資銀行) は一帶一路構想の実現のための強力な機
関。国際諮問委員に指名。

◇ 社会における友愛

母性(女性性)の時代

男:闘争社会<=>女:平和社会、種の維持

◇ 経済における友愛

新自由主義:自己の自由の最大化

金融資本主義:マネー社会、物質中心主義

友愛資本主義:協同組合、NPO、NGO、新しい公共

◇ 外交における友愛

価値観外交:「自由と繁栄の弧」＝価値観を同じくする国々と協力する
外交=>中国の孤立化を図る

友愛外交＝価値観を異にする国々同士がいかに協力するかが外交

◇ 歴史上の罪への謝罪

南京大虐殺記念館での謝罪:南京で民間人を大量に殺戮



Japan YUAI Association

「友愛講演会」 2016 11 22 & 23
日本友愛協会

重慶地下防空壕跡での献花：重慶爆撃で多数の民間人の命を奪う

西大門刑務所での謝罪：日本統治時代に政治犯を拷問死

相手の尊厳を奪った行為に対して謝罪

無限責任（内田樹）：相手がもういいと言うまで謝る気持ちを持つこと

◇ 尖閣諸島問題

日本政府の「領土問題は存在せず」は、問答無用の最も友愛に遠い言動

相手の意見に耳を傾けること

1972年の周恩来・田中角栄の事実上の棚上げに戻ること

◇ 友愛教育の必要性

中国・日本の古典的伝統文化を学ぶこと

異なる宗教同士が学び合い、違いを認め合うこと：世界宗教者平和会議